

「ワーク・ライフ・バランス」に関する談話

“ライフ”を先にした「ライフ・ワーク・バランス」への転換が必要
勤労者の心の健康むしばむ長時間労働ノ一方で「働きたくても働けない」人も

社団法人日本産業カウンセラー協会
事務局長 原 康長

(社)日本産業カウンセラー協会が、9月に全国13支部で一斉に実施した「働く人の電話相談室」では、不眠やうつなどに悩む人は長時間労働をしているケースが多い一方で、「働きたくても働けない」環境にある人からの相談も多く、仕事と生活の関係が勤労者の心の健康に大きな影響を及ぼしていることが明らかになりました。人生を豊かにするための仕事のあり方を目指し、いわゆる「ワーク・ライフ・バランス」から、“ライフ”を先にした「ライフ・ワーク・バランス」への転換が必要と考えます。

政府は、いわゆる「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)」を、働き過ぎの解消と少子化対策に関連付けて、数値目標を掲げて推進することになっています。

確かに、働き盛りの30代・40代は、子供を産み、育てる年代でもあります。特に30代は、バブル不況のあおりを受けた超氷河期に就職時期を迎えたため、正社員としての仕事の担い手が相対的に少なく、一層仕事が集中する傾向があります。

一方で、非正規社員として経済的基盤が安定しないことにより、「働きたくても働けない」「子供を産みたくても産めない」ケースも増えているのです。実際、産業カウンセラー協会が受けた、自身の経済問題に関する相談は、大変深刻なものが目立ちます。

勤労者が心身ともに健康で豊かな人生を送るために、政府は実質的な労働時間規制につながる法整備と、「働きたくても働けない」人たち向けの雇用対策とを両輪で推進すべきです。同時に、企業の側は、一定の残業時間内でこなせる適切な仕事量管理に加え、仕事に必要な人員の確保と人材投資による従業員の定着に、企業決断として取り組む必要があると考えます。

以上

本件に関する報道関係の方からのお問い合わせ先
社団法人日本産業カウンセラー協会事業部 阿部 TEL:03-3438-4568
(株)P&I: 富樫ノ大原 TEL:03-5689-0445 FAX:03-5689-0455
E-mail: press@counselor.or.jp